

重要海域の見直しについて

1. 重要海域の現状

H20年度までの重要海域の現状

選 定 要 件		保存区1	保存区2	保存区3	保存区4	保存区5	再生区1	再生区2	再生区3	再生区4	再生区5	再生区6	参照項目
1a	大型の群体が高密度又は広範囲に分布する海域	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	卓状サンゴ最長径等
1b	サンゴ幼生供給源となる海域												マスタープランより
1c	大面積にわたり被度が高いサンゴ群集が分布する海域		×	×	×	×	×	×	×	×		×	サンゴ被度
2	固有性の高いサンゴ群集が分布する又は生物学上重要性を有する海域						×						多様性指数
3	白化、土壌流出等攪乱要因を受けにくい海域												白化、シルト、食痕
4	なんらかの攪乱要因により健全性が損なわれている海域			-			-	-	-	-	-	-	植物被度等

* ;該当、 ;中程度に該当、×;該当しない、- ;不明

2. 重要海域の課題

いずれの保存区も大型群体や高被度サンゴの分布が失われている。

保存区1、2、4、5において植物被度が高くなっており、攪乱要因の影響を受けているおそれがある。

再生区5を除く再生区のサンゴ生育状態が良好になっていない。

再生区の攪乱要因が解明されていない。

3. 重要海域の範囲、設定場所の見直し案について

マスタープラン作成時に設定した際は、高被度サンゴ分布域を基本に設定したものの、現在の状況は変化し、見直す必要があるものと考えられる。

(1) 設定範囲

現在の区域はポイント的な2m×15mの範囲程度であり、環境変化に著しい影響が示されやすいため、その範囲をより大きく設定する。

(2) ゾーニング

選定要件について、具体的な評価基準を設ける。

供給源としては、場所は石西礁湖のみならず、関連区域なども含め検討

再生に寄与できる供給量を換算

十分に供給源となり得る程度のサンゴ被度、大型群体数、成熟群体割合等の明確化

選定要件に物理的要因（海流、波当たり、地形、底質、利用状況、都市部からの距離等）を追加

* 実証区の取扱い

サンゴ幼生のシンクに設定。幼生定着量が多い海域に設定すること。